

挑む!

筆談でXジェンダーを発信する

ソルトさん(30)

女性でも男性でもない私だから



1986年、京都府八幡市生まれ。イラストレーター。性別を意識されないように、本名の「シオリ」の「シオ」を英語にした。

名刺の裏には、次のように書かれている。「耳が聴こえません。ペンとメモを常に持ち歩いているのでお気軽に筆談でお話してください。エックス(X)ジェンダー(自分を男女どちらとも思わない)として、LGBT(性的少数者の総称)の発信もしています」

イラストレーターとして働き始めた19歳のころ、「聴覚障害の人に初めて会った」と声をかけられた。「多くの人に知って欲しい」と名刺の裏書きを思いついた。読唇術や筆談で質問をつ

かみ、さつと紙に書いて答える。

女性として生まれたが、小さいころからスカートやピンク色に嫌悪感があった。男性という自覚もない。18歳のころにたまたま手にとった本で、「Xジェンダー」という概念を知り、「私、これだ」と胸にストンと落ちた。

3歳で聴覚を失った。当時はテレビも字幕放送がなく、絵をかくことが唯一の楽しみだった。曼茶羅や細密画が得意で、カフェなどの壁に動植物を描く。「どうしても絵から性別がにじみ出てしまうのがイヤで。動物や植物は自分とつながっている感じがする」

10日から作品展「幻想まんだら展コナトウス」を大阪市淀川区で開く。「絵は糸偏に「会う」と書きますよね。絵を通して私の作品に込めた糸(「意図」)を知ってもらえたら」

文・写真 大貫聡子

記者から

配った名刺は500枚。多数、少数に分けるのではなく多様であることを知って欲しいそうです。